

第 60 期 事業報告

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

当法人は、公益活動を継続的に行い、更なる充実を目ざして、事業の整備に取り組んでまいりました。

公益法人制度の改革にともない、医療、保健、福祉、教育その他より良い社会の形成に関する事業を総合的・一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与することを目的とした公益社団法人として静岡県知事の認定を受け、平成 26 年 4 月 1 日より公益社団法人として再スタート致しました。

昭和 30 年、地域医療の担い手として富士病院の運営を開始し、その後、富士小山病院、東部病院を継承して地域医療を守り、あわせて疾患を持つ高齢者のためにグループホームや訪問看護ステーションを運営してきました。不採算であろうと地域に必要とされる医療・介護に積極的に携わり、この地域においてこの分野の公的役割を果たしてきたことが認められ、又今後期待されているものと、改めて身を引き締めて活動していく所存です。

今期、具体的な成果として、地域の診療・救急の拠点としての役割を充分果たすために、富士病院は増改築耐震化工事を完成させ、急性期病院としての機能を充実させ、結果として多くの住民が受診し、重症患者の増加に繋がりました。しかし、平成 26 年度の診療報酬改定は、かつてない急性期病床の絞込みの内容で、法人全体として生き残っていくためには、3病院の機能分化の明確化と、各病院がいままでない強力な連携体制を整えることが必須となりました。

このような状況下で、60 期の節目の今期、富士病院、東部病院の収益は改善し、富士小山病院はその収益がいままで法人全体を支えてきましたが、赤字に転落、グループホームごてんばも大きく落ち込む結果となりました。訪問看護ステーションの利用者は一時的に減りましたが、収益は確保し、トータルでは富士病院の補助金収入もあり、法人全体で 24,626 千円ほど黒字となりました。

そのほか、事業計画を連携のある社会福祉法人寿康会に移譲した“みらい保育園”(認可保育園:90 名定員)も 90 人の園児を集め、26 年 4 月スタートする運びとなりました。

また、新規のグループホーム開設を目指して、事業認可を御殿場市に申請しましたが、市の判定会において残念ながら採択されず、わずかの差で他団体に決定してしまいました。

具体的な事業の概要を下記の順に報告します。

公益事業の内訳

1. 病院の運営

2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

1. 病院の運営

富士病院、富士小山病院、東部病院、訪問看護ステーションごてんば・グループホームごてんばの一体的運営を目指し、各病院の連携室が中心になって、工事中の富士病院のカバーを図り、患者受け入れを努めました。年間の外来数(一般外来)は各病院合計 233,347 名(昨年 206,649 名)でした。又入院延べ患者数は全体で 55,923 名おりました。

今後は各病院の機能を明確にし、担当者を集めた会議など計画してひとつの病院のごとくの連携が可能になるよう推進します。

また二次救急については、御殿場市・小山町の8割を当法人が担当しておりますが、東部病院の医師不足で外科二次救急の一部を富士病院と富士小山病院に振り分けました。機能が充実した富士病院は、救急患者の受入件数は約3割増加し、年間 1,097 件でした。沼津地区の内科2次救急の支援(広域救急)は月4回程度協力しました。

平成26年2月リニューアルオープンした富士病院は、急性期病院として機能が大幅に向上し、スタッフの教育にも力を入れ、ICUの活用(診療報酬の加算は取れず)も順調に進んでおりましたが、H26.4 診療報酬の改定で対象患者のハードルが上がり、又看護師不足も加わり、一時、使用を心臓血管手術患者に限定し、近い将来ハイケアユニットとして再開します。

また災害対策については、理事長が地域の災害医療コーディネーターとして東部保健所より任命を受け、3病院が救護病院としての役割を認識し、災害時の医療救護活動の最重要拠点となるという自覚で、まずは地域の透析医療の防災拠点施設の整備、JMATの参加など行いました。

各病院の運営概況

富士病院の運営

今期は耐震化工事の最終年度で、幾多の制限の中での診療となりました。そんな中、様々な工夫とスタッフの努力で、患者数は増加し、外来、入院とも伸び、収益の改善を図ることができました。一日平均 479 人、日当点 6,296 点(昨年 5,775 点)を確保。健診事業も全体的に増加し、出張健診も新たな企業の利用も増えました。検査結果に基づいての診断、健康管理及び予防等実施し、治療にいたる包括的対応をおこない、地域住民の健康予防対策室的な役割を実践しま

した。

救急医療は地域の夜間や祭日における二次救急医療を引き続き受け持ち、また外科の二次救急は東部病院の担当の一部を富士病院で受け地域の体制の維持に協力した。内科の沼津・三島の広域救急の協力は26年度も担当する。ドクターバンク制度を利用して消化器疾患の受入体制の強化を図った。また循環器、小児科、外科領域の救急の充実も常勤の採用はなかったが、非常勤医師の確保で補充した。

又、感染対策医療分野では、この地区における新型インフルエンザ等対策特別措置法における指定地方公共機関として県から指定され、今後地域の中心として活動していかなければならない立場となりました。

在宅訪問診療は通院できない患者のために、訪問看護ステーションと連携して訪問診療を実施しました。今年度は、高齢者の救急対医療の重要性を再認識し、その受入にも努めた。特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、高齢者専用住宅など、連携施設への定期的な訪問診療も在宅訪問と合わせて実施し、在宅医療の推進に貢献した。

医業収入は、外来収入が1,564,146千円(予算比5.8%増:昨年度実績1,430,881千円)、入院収入が2,726,989千円(予算費10.26%増:昨年度実績2,475,232千円)と大幅に増加しましたが、保健予防活動は健診担当常勤医師の退職の影響で、147,371千円(予算比13.4%減:昨年度実績14,547千円)となりましたが、医業収益総額では4,653,849千円の収入を確保、対予算226,255千円(予算比10.2%増)、昨年度実績4,239,28千円からは414,562千円(9.78%)の増収となりました。一日平均患者数は116名(昨年115名)と工事の関係で微増にとどまりましたが、平均在院日数は11.1日で、昨年より1日短縮でき、平均入院日当点は6,296点(昨年は5775点)と増加しました。

医業費用については、予算額より193,450千円(予算比4.3%増)しました。詳細は、給与費は予算どおりでしたが、材料費が11%増加、委託費5.6%増加、経費は微減の結果でした。

今期特別利益として補助金収益として674,499千円を計上し、建物圧縮損として601,936千円の処理を行いました。結果今期は42,267千円の最終黒字となりました。

富士小山病院

小山町唯一の病院として、例年通り、地域の皆様とのふれあいを大切に、職員一同、医療介護サービスの充実、業務の効率化、コストリダクションを一致団結して、推し進めてきましたが、今年度後半よりノロウイルスの集団発生や大雪等イレギュラー起因により、マイナス要素が大きくなり、前期の収入を持続することができませんでした。

医業収入は、外来収入が 399,692 千円(予算比 2.7%減)、入院収入が、595,620 千円(予算費 7.2%減) となり、結果総額 995,312 千円の対予算 57,265 千円(予算比 5.4%減)減収(前年比 7,953 千円増収(0.8%増)となりました。対予算において、外来減収原因は、年度前半は順調に推移していたが、1 月の病棟におけるノロウイルスの集団発生、2 月の大雪等を起因し患者減少が続いた。また、昨年に引き続き、近隣診療所オープン等により整形外科患者の減員(延べ約 2,500 名)により、一日平均患者数は 165 名にて、予算目標 178 名を達成することが出来ませんでした。結果、11,789 千円の減収(対前年 0.3%減、1,070 千円減収)となりました。入院減少原因は、一般病棟は、年度後半の外来減少に起因し、一日平均入院患者数が 19.4 名と予算約 7 名の減員となり、予算比 11.1%減の対予算 33,956 千円減収(対前年 6.1%増、15,500 千円増収)となりました。療養病棟も、ノロウイルスの集団発生等により一日平均入院患者数が 57.7 名と予算約 1 名の減員となり、予算比 3.6%減の対予算 12,130 千円減収(対前年 2.0%減、6,477 千円増収)となりました。他、検診事業等は大きく増減はなく、医業収入全体で、予算比 5.8%減額の 64,513 千円の減収(対前年 0.1%増、1,283 千円増収)と、目標額を下回りました。

医業費用については、予算額より 33,843 千円(予算比 3.0%減)下回りました。詳細は、給与費が 3.0%減(医師を含む減員により)、材料費は予算比 13.1%減(売り上げ減収等)、委託費は増減なし(売上減収により検査費減、ノロ対策により廃棄物等増)、諸経費は 6.5%増(電気料金値上げによる光熱費増、ノロ対策による消耗品増、レセコンを含む winxp 対策による消耗備品増)、減価償却は予算比 16%増(老朽化に伴う新規取得により)となりました。

結果、当期は 1,181 千円(予算比 104.1%減)損失となりました

東部病院

透析患者の導入年齢の高齢化や長期透析治療患者が増加し、介護施設での対応が困難な透析患者も増加するなか、通院困難な患者の受け入れ、透析導入や合併症患者の受入等を積極的におこないました。地域連携をより強化し、社会復帰の支援を目的に、夜間透析患者の受入を行ってきました。課題であったスタッフ確保として、常勤の透析管理医師を採用できましたが、地域並びに関連施設への周知不足や医師の病気加療などに加え、透析患者の高齢化、合併症による転帰の増加などにより、外来透析数が伸びず、前年度比 269 件の減少でしたが、入院透析は前年度比 1,200 件の増加でした。

スタッフの補充が進まず、外来及び入院透析の受入に支障をきたす場面もあり、早期に常勤の透析管理医師 1 名、看護職 2 名以上のスタッフの拡充を図り、御殿場・小山地域の透析医療の充実を図り、高度で、良質な透析医療を長期にわたって提供可能な透析関連医療施設として、その機能特

化を押し進めてまいります。

また協会健保認定の『生活習慣病予防健診実施医療機関』を前面にだし、産業医活動・人間ドック・検診等について企業への勧奨をおしすすめました。

25年度は看護配置基準の維持(10:1)はできましたが、診療報酬改定により、26年度は大きな課題を残しておりますが、医師、看護師、薬剤師の確保を通じて、新しい東部病院の役割と方向性を持たせるよう職員一同一丸となって、業務に邁進します。

数字的な部分では、平成25年度の医業収益は、1,083,541千円で、前期比20,614千円の増、予算比89.5%で、当期損益は16,706千円の減、前期比10,224千円の増、予算比36,624千円の減となりました。

外来全科は、延べ患者数44,241名(前期比1,209名減)一日平均患者数で、前期比3.8人の減となりました。入院全科は、年間延べ在院患者数が10,215人(前期比529人増)一日平均入院患者数は28.0人(前期比1.5人増)となりました。

費用については、非常勤医師削減により前年比11,000千円の費用削減と、退職給与引当金積立率を10%引き上げた額6,100千円が本年の特異事項となります。

1-1 一般外来

富士病院の外来については工事中ではあったものの機能は着実に進み、診察・スタッフの流れの改善が待ち時間の改善に繋がり、患者様のスムーズな受診に繋がった。

【平成25年度実績】

一般外来数

年間延受診者数 233,347名(昨年206,649名)

富士病院 140,204名、富士小山病院 48,606名、東部病院 44,537名

1-2 健診事業

一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科健診、小児健診など幅広く当院の診療体制を活用した健診が行われた。

【平成25年度実績】

特定健診受診者数 2,866名

国民健康保険

富士病院 793名(昨年832名)、富士小山病院 996名(昨年1,036名)、東部病院 804名(昨年680名)

社会保険

東部 273名(昨年241名)

マンモグラフィー健診 3,431 名(昨年 2,706 名)

富士病院 2,404 名、富士小山病院 429 名、東部病院 598 名

子宮ガン検診 1,427 名(昨年 1,305 名)富士病院のみ

1- 3 救急医療

富士病院では沼津・三島・裾野の内科広域救急担当を月3～4回実施した。

救急車受入件数は富士病院 1,097 名、富士小山病院 139 名、東部病院 108 名(救急センターからの転送・他地域・病院からの搬送も含む)

【平成 25 年度実績】

・疾患別(3病院合計)

心疾患	280 名	呼吸器疾患	177 名		
消化器系疾患	132 名	脳血管疾患	92 名		
小児救急	66 名	外傷系	37 名		
中毒	22 名	不明	5 名		
その他	394 名			合計	1,205 名

・休日・時間外救急対応件数 2,316 名

富士病院 1,677 名、富士小山病院 226 名、東部病院 413 名

・広域救急の救急車受入件数 61 件(昨年 15 件)

1-4 在宅訪問診療

高齢者の急病に対する医療・看護更には見取りの問題も踏まえ、当法人では前向きにこの分野での充実を推し進めてきました。安心して在宅・施設でその人らしい生き方が送れるよう訪問看護ステーションとも連携して支援してきました。7 名の医師が在宅や施設をそれぞれ訪問し、患者の診療にあたりました。

【平成 25 年度実績】

施設訪問診療件数	8 施設	訪問診療患者数	240 人
訪問診療回数	2,937 回		

1-5 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からも医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などに出来る限り応え、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めました。

・御殿場市救急医療センターの一次救急医療業務代行(年 3 回)

・救急センターの当直スタッフ派遣

小児科医師	52 日	外科医師	28 日
-------	------	------	------

- 放射線技師派遣 145 日
- ・地域医療機関・施設への定期スタッフ派遣協力
 - 医師 順天堂静岡病院麻酔科・富士宮市立・徳州会大和・ほか6施設
 - 放射線技師 2施設 言語聴覚士1施設
- ・医師会の事業への医師・看護師派遣、緊急時受入
 - 予防接種 32回
 - 学校医 校数8校 校医出動13回
 - 馬術・マラソン大会・体育大会など 看護師14日
 - 診療協力(医師会経由含め催し物患者受け入れ) 10件
- ・災害時ボランティア活動
 - リレーフォーライフへの参加・本部支援
 - 募金活動金額(ユニセフ募金・ハートフル募金等)35,000円
- ・地域防災訓練支援(看護師派遣)
- ・高校等への医療担当看護師派遣 1件

1-6 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しするなど積極的に取組む。共同利用の機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図など広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献している。

他施設からの依頼

CT依頼施設数	14施設	CT件数	191件
MRI依頼施設数	14施設	MRI件数	149件
エコー依頼施設数	3施設	エコー件数	23件
大腸内視鏡検査依頼施設数	10施設	大腸内視鏡件数	17件
胃依頼施設数	6施設	上部内視鏡件数	18件
冠動脈依頼施設数	6施設	冠動脈造影件数	13件
その他依頼施設数	9施設	その他件数	74件
依頼施設数合計	62施設	依頼件数	485件

1-7 専門領域 ()は昨年症例

循環器医療

富士病院では、今年度から日本循環器学会の循環器専門医研修施設となり、植込型除細動器移植術、高速回転冠動脈アテレクトミーの施設基準を満たし、高度治療ができる施設となりました。24時間365日体制で循環器

科医を配置し、緊急の心筋梗塞等にいつでもカテーテル治療の対応ができるスタッフ体制を整え、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を果たしてきました。心臓血管外科チームと合同で地域の心疾患をカバーする医療を提供しました。

【平成 25 年度実績】

急性心筋梗塞 47 例(71 例) 救命率 100%(100%)
経皮的冠動脈形成術 481 例(401 例) 心筋焼灼術 36 例(70 例)
心臓バイパス術等開胸術 27 例(25 例)
腹部大動脈手術 25 例(26 例)

小児科

富士病院の小児科は、この地域で唯一小児の入院ができる施設である。医師の待機は 24 時間 365 日態勢で急病患者に対応した。東海大学の派遣で 2 名の常勤医と 5 名の非常勤医師で対応してきましたが、2 月常勤医が急病となり、救急対応の制限をせざるを得なかった。

【平成 25 年度実績】

緊急入院件数 115 例(116 例) 各種予防件数 1,779 例(2014 例)

呼吸器内科

当地域で呼吸器疾患の専門的な診療ができる病院は、唯一富士病院だけである。

平成 26 年度 睡眠時無呼吸疾患の検査を再開する予定。

【平成 25 年度実績】

在宅酸素療法患者数 89 名(58 名)
無呼吸症候群治療患者実数 227 名(212 名)

糖尿病内科

富士病院では今年度、日本糖尿病学会認定教育施設に認定され、チームで糖尿病指導にあたり、その管理に傾注し、また糖尿病の啓発活動の成果と考える。また糖尿病療養指導士の育成も行う。

【平成 25 年度実績】

糖尿病受診患者数 1,743 名(1,882 名)
延べ受診患者数 12,022 名(21,597 名)

消化器内科・消化器外科

富士病院では今年度、外科部長が交代し、新体制となった。又、新に内視鏡室長に配置し、外科を含め受け入れ態勢を整備した。

当法人では、昼間を中心に吐下血をはじめとする消化器疾患に対応する救急医療を実施した。又内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施した。また肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施した

【平成 25 年度実績】3 病院合計

上部内視鏡検査 2746 件 (2,855 件)
大腸内視鏡検査 1,064 件 (1,182 件)
ポリープ切除術 140 件 (249 件) E R C P 30 件 (43 件)
E S D 5 件 (9 件) 吐下血緊急入院 31 件 (20 件)
穿孔 3 件 (3 件) 腹腔鏡下胆嚢摘出術 38 件 (33 件)
腹腔鏡下小腸部分切除術他 8 件
結腸癌切除術 23 件 (18 件) 膵頭部癌切除術 1 件 (4 件)
胃癌切除術 9 件 (6 件) イレウス 30 件
虫垂炎 31 件 (11 件) 消化器系手術合計 258 件

乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動などを実施した。

【平成 25 年度実績】

乳房切除術 (温存) 30 件 (22 件)
乳腺腫溜摘出術 25 件 (16 件)
その他乳がん系手術 6 件
マンモグラフィー検査 3,020 件

泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。

【平成 25 年度実績】

膀胱経尿道的切除術 27 件 (14 件)
前立腺肥大切除術 18 件 (25 件)
尿管結石破砕術 21 件 (73 件)
その他 107 件 (63 件)
合計手術件数 173 件 (102 件)

眼科

当地域で、眼科の入院や白内障手術に対応できるのは、当法人の 2 病院のみであり、2 名の常勤専門医が診療を行っている。

【平成 25 年度実績】

白内障手術 861 件 (903 件)

人工透析

御殿場市・小山町に裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変

(骨折・心疾患・消化器系・脳疾患など)に緊急透析が出来る体制を 24 時間 365 日整えている。今年度は導入患者が多かった。

【平成 25 年度実績】

入院透析 平成 26 年 3 月 31 日現在 41 名(34 名)

外来透析 183 名(174 名)

内夜間透析 26 名

透析導入件数 46 名

1-8 療養病棟

富士小山病院療養病床 60 床利用率 95%(昨年 96.6%)今期も生活困難者・生活保護受給者の受入を積極的に行ったが、今期は減少した。

【平成 25 年度実績】

月平均入院患者数 57 名(58 名)

内生保患者 3 名(14 名)

1-9 医療従事者による調査研究・学会発表

臨床より得られた研究課題について、研究し、その成果を学会・研究会で発表し、医学の発展に貢献した。

【平成 25 年度実績】

医師 12 件(日本腎臓学会、CVIT東海北陸地方会、他)

看護師 10 件(日本消化器内視鏡技師学会他)

その他 3 件(日本摂食嚥下リハビリテーション学会他)

1-10 一般入院

富士病院の増改築工事完成により、使用可能なベット数が増加しましたが、工事完成までの間は工事中の制限があり、ベットコントロールに苦慮しました。

【平成 25 年度実績】

入院延べ患者数

1 日平均取扱患者数 164.1 人

富士病院 116.1 人 富士小山病院 19 人 東部病院 29 人

平均在院日数

富士病院 11.3 日 富士小山病院 9 日 東部病院 15 日

年間新入院件数 4,616 人

富士病院 3,460 人 富士小山病院 769 人 東部病院 387 人

2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

ステーションの理念である「その人らしさを大切にする看護」のもと家族と共にそ

の人らしく在宅で過ごしたいという願いに寄り添い、御殿場、小山地区唯一の訪問看護ステーションとして幅広い訪問看護活動を行いました。また、御殿場、小山地区は、開業医、勤務医が非常に少ない為、医療情報を地域に伝えるという役目も担ってきました。

富士病院の訪問診療に同行し、利用者、家族、主治医とのパイプ役として在宅医療を支えました。在宅における看護・介護の必要性は高く、小児から高齢者まで多種多様な疾患や医療処置に 365 日 24 時間対応しています。

訪問看護に必要な訪問看護指示書は、法人3病院以外の他病院からも多く出ています。

平成 24 年度の利用者数は、月平均 110 名、訪問件数は 6,558 件でしたが、平成 25 年度の利用者数は、月平均 95 名、訪問件数は 5,649 件と減少しました。原因としては、多数の施設新設に伴う入所や在宅でターミナル期を過ごすため訪問看護を開始しても、亡くなってしまい訪問看護の継続に繋がらないケースの増加が考えられます。しかし、訪問看護の需要はなくなり、今後も、家族の介護負担を考慮し、在宅生活を継続できるよう支援を続ける事が必要です。同時に医師を含む多職種との連携を円滑に行っていきます。

在宅療養を継続する為に、在宅でのリハビリテーションの必要性も増し、言語聴覚士、理学療法士の需要も増えました。それに、応えるために、理学療法士は、機能訓練強化、言語聴覚士は、嚥下訓練、誤嚥性肺炎予防など訪問リハビリテーションを積極的に取り組みました。

(地域連携活動)

- ・サービス担当者会議出席
- ・静岡県訪問看護ステーション協議会主催の訪問看護電話相談事業
- ・御殿場看護学校へ講師派遣
- ・訪問看護実習生の受け入れ
(御殿場看護学校・がんセンター・e-ラーニング受講者)
- ・職場体験(御殿場中学校・御殿場西高校)
- ・居宅介護支援事後所併設
- ・介護支援専門員(5名)在籍し月1回の介護支援専門員連絡協議会に出席
- ・御殿場市介護認定委員(1名)として介護認定委員会に参加し介護認定に携わっている
- ・介護認定調査員(2名)として、認定調査施行

【平成 25 年度実績】

利用者数 96 名(110 名)

指示書依頼医療機関 28 施設(22 施設)31 名(43 名)

訪問年間回数 5,649 回

夜間休日相談回数年間 85 回

夜間休日出動回数 59 回 地域連携サービス会議 59 回参加

また、併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員(ケアマネージャー)の資格を持つ5名の職員が訪問看護ステーション利用者の要請に基づいてケアプラン作成に当たり、介護サービスの提供の確保がされるように努めた。

【平成 25 年度実績】

・ケアプラン作成数 3件

3. 高齢者のグループホームの運営

"グループホームごてんば"は、開所から12年になります。入居者の身体的体力の低下・認知症の重度化が進む中、さまざまな事態に対して、どうしたらよいか、スタッフ間で話し合いを重ね、柔軟に対応して参りました。

年間で退居者7名・入居者1名で、退居者は4名が入院後死亡、2名は待機待ちをしていた特別養護老人施設へ入所、1名は要介護状態区分等の変更により退所となっています。入居者の要介護度が高くなり、入居者9名中6名が車椅子の対応になり、入院も9回ありました。病院受診の回数が年間で 187 回(提携医療機関 178 回・他提携医療機関9回・救急搬送2回)と、とても多く、職員の介護負担が増えています。

重度化しても、家庭的な環境の中で日常生活の援助を行い、認知症の進行を穏やかにし、訪問看護ステーションと連携して健康管理を行いながら、明るく楽しい生活を送って頂いています。

地域密着型サービス事業所として、運営推進会議を年間6回開催し、様々なご意見を参考にしながらサービスの質の向上を行っています。運営推進会議を利用して、地域との連携が円滑に行えるよう活動しました。

研修研究活動

職員の研修においては、様々な研修に参加し、研修後は内部研修を兼ねた報告会を行い職員のキャリアアップを行いました。

「認知症介護実践者研修」1名、「福祉有償運送運転者講習会」2名、「認知症の基本的理解とケアの方法」2名、「認知症の人の権利擁護」2名、「社会福祉施設等職員防災研修会」1名、「がんの介護実践研修会」1名、「グループホームにおける防火安全対策研修」1名、「新任職員研修」1名、「レクリエーション講座」1名、「福祉人材確保実践セミナー」1名、「ターミナルケア入門講座」1名、「介護職のための薬の知識講座」1名、「施設長等運営管理職員研修」1名、「口腔ケア講座」1名、「高齢者虐待防止講座」1名、「リスクマネジメント講座」1名、「ストレスマネジメント講座」1名、「新人職員指導術講座」1名、「グループホームでのターミナルケア」2名、「高齢者の健康管理と病気の理解」2名、「急変を見逃さないための救急講座」1名、「接遇マナー研修」1名、「栄養士・調理員研修」1名、

「福祉避難所研修会」1名、「介護記録総点検セミナー」1名、「高齢者の転倒予防講座」1名、「高齢者の医学基礎知識」1名、「対人援助職のための福祉実践力基礎講座」1名、「社会福祉施設等のための災害対策基礎講座」1名

地域貢献活動として

グループホームごてんば便りを発行し、家族の方々、地域・連携施設などに配布して活動報告を行いました。

地域の方からボランティアの参加希望があり、積極的に受け入れ福祉の心を共有して頂きました。

近隣の御殿場聖マリア幼稚園との交流を通じて、幼児から歌やお花などのプレゼントを頂き、入居者の笑顔が印象的でした。

介護についての疑問・相談を無料で受け付け対応しました。

【平成 25 年度実績】

- ・入所者平均人数 6.2 人(定員は9人)
- ・介護度5は 0.25 人、介護度4は 3.67 人、介護3は 2.33 人、
介護度1は 0.5 人、要支援2 0.33
- ・運営推進会議6回
- ・お花見などの催し年 34 回
- ・便りの発行6回

4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4-1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、他が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めた。

【平成 25 年度実績】

医師(市民健康大学、糖尿病教室など)5回、看護師3回、コメディカル9回、
その他部門 11 回 合計 28 回

4-2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを実施した。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等を、病院内や市民交流センター等を会場として、無料で行なった。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行いました。

【平成 25 年度実績】

- ・健康フェスタふじおやま 小山町総合文化会館 58 名

・しゃくなげ祭(東部病院)	116名
・減災の日催し(富士病院)	75名
・東部糖尿病予防キャンペーン	160名
・まちの保健室	20名
・ウォークラリー等(糖尿病キャンペーン)	50名

5. 医療人材の養成支援

5-1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習や、救急救命士の実習の受け入れを行い、医療に係る人材の育成を支援しています。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献しています。

特に地元の御殿場医師会が運営する御殿場看護学校については今期も多くを担当し、学校の講義においても当法人の医師、看護師等有資格者 28 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行ないました。

【平成 25 年度実績】

- ・昭和大学・東海大学他から医療関係学部の実習を受け入れた。
 医学部 10 名、歯学部 6 名、薬学部 15 名、臨床検査技師 1 名、
 臨床工学士 2 名、理学療法士 8 名、作業療法士 1 名、言語療法士 1 名、
 看護師 6 名、社会福祉士 1 名
- ・御殿場看護学校他
 延実習人数 153 人 延実習日数 1,500 日
 非常勤講師人数 28 人 担当時間数 700 時間

5-2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣した。又公開講座として地域病院・医療機関を対象に公開講座を開催した。ホームページにも掲載し広く呼びかけた。

【平成 25 年度実績】

- ・医師による講演(医師会・薬剤師会など) 23 回
- ・看護師による講演 7 回(内視鏡技師他)
- ・メディカルによる講演(放射線技師会・超音波技師等) 10 回
- ・公開講座 『病院における情報管理』他 1 件 合計 42 件

5-3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5 職場体験実習」に参加する道を開いている。今期は学校から依頼がなかったため、実施しなかった。

5-4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受け入れています。

【平成 25 年度実績】

高校生高校数	11 校	学生数	26 名
中学校数	8 校	学生数	23 名
他団体	4 団体		7 名

5-5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設に通っている人を対象とし、当法人の創案により地域の病院が連携して、奨学金貸与を実施している。

【平成 25 年度実績】

- ・御殿場看護学校(3 学年定員 96 名)の学生 35 名、
- ・その他看護学校生 5 名

6. 病院、施設等における各種相談助言

6-1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク(他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク)を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からの就職相談・社会資源活用の為の相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料で対応しています。

【平成 25 年度実績】

地域医療連携室経由相談件数	6,576 件
他院より紹介	3,995 件
他院への照会介護等に関する相談件数	2,269 件
ケースワーカー相談件数	3,723 件
介護等に関する相談件数	1,994 件

医事課相談件数	307 件
総件数	18,864 件

6-2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成 12 年 1 月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。

【平成 25 年度実績】

生活困窮者の室料等の減免件数	224 件
生活困窮者の室料等の金額	9,731,560 円
小児科室料の無料化	4,601,100 円
老人施設居室	1,822,342 円
総額	1,6155,002 円